

平成24年度 第2回日本粘土学会評議員会議事録

日 時：平成25年2月2日（土） 15：30-17：10
場 所：早稲田大学理工学キャンパス62W号館1階
中会議室

出席者（順不同、敬称略）

山田、八田、伊藤、蛭名、太田、岡田、亀島、
河野、川俣、小暮、佐藤（久）、佐藤（努）、
志々目、篠原、鈴木（正）、高橋、田村、中川、
日比野、宮脇、山崎、土信田、書記：鈴木（憲）

1. 報告事項

- (1) 粘土科学の発行・編集状況（鈴木（正））：編集委員会メンバーの変更が報告された。第51巻2号、3号の発行予定ならびに現在の原稿受付状況が報告された。また必要配付部数を検討し51巻2号より発行部数を650部に減らすことが報告された（別紙）。
- (2) Clay Science の発行・編集状況（河野）：編集委員会メンバーの変更が報告された（別紙）。Advisory Editors の位置づけに関する議論があり、Associate Editor に加えるべき委員数名について了解を得て変更することとなった。Vol.16 No.3、4の印刷状況報告（別紙）があり、原稿数によっては発行遅延の原因となるので、積極的な要請があった。現行の投稿規定について原稿書式を明示した改正執筆規定案が提示された（別紙）。テンプレート（電子ファイル）を用意する必要性の意見が出されたが、編集上の利便性がないため採用しないことになった。
- (3) 会計（土信田）：平成25年度会計中間収支状況（別紙）の報告がなされた。また、八田常務委員長より選挙の無い年の事務局費は120万円であることが確認された。
- (4) 行事（佐藤）：第2回 Asian Clay について、日本、韓国以外からの参加者も多く盛会であったこと、会計報告を粘土科学に掲載したことの報告がなされた。八田常務委員長より梨花女子大学で開催した常務委員会・評議員会に係る経費に関して韓国側の用意があり、為替手数料を除き、予定した経費を学会事務局に返還したとの報告があった。
- (5) 国際協力（佐藤）：第15回 ICC（ブラジル）への参加呼びかけの依頼があった。AIPEA ニュースレターに第2回 Asian Clay 報告と日本粘土学会の役員現況を掲載する旨の報告があった。AIPEA 情報の粘土学会会員への周知方法について議論があり、粘土学会事務局から会員に配信することとなった。また今年には米国粘土鉱物学会の50周年となるため年会への積極的参加のお願いがあった。山田会長から本会の50周年の時にはお礼のレターを頂いているので、今年には日本側から何か送りたいとの考えが示された。若手の振興奨励金については、共催でないため特別枠を設けないことが報告され了承された。

(6) 企画

- ①標準粘土（宮脇）：2012年7月以降19件の依頼があった旨報告された。セリサイト2種類は現在のストックをもって頒布終了の予定が報告された。新しい供給先については今後検討することになった。また安定供給のために必要なストック方法について今後検討することが報告された。
- ②ホームページ（岡田）：特になし。
- (7) 庶務 会員動向（土信田）：事務局から現状報告があった（別紙）。
- (8) 連合等（山崎）：特になし。
- (9) 事務局（土信田）：共催・協賛について報告があった（別紙）。
- (10) その他
 - ①岡田委員から ICIS のプレシンポジウム（5/11）の協賛と参加の依頼があった
 - ②宮脇委員から北川先生の鉱物コレクション展示会開催の紹介があり、日本粘土学会として共催もしくは協賛をすることが決まった。

2. 審議事項

- (1) 第57回粘土科学討論会について：別紙をもとに以下の件について審議がなされた。
 - ①講演要旨集の電子媒体による配布について（中川）：八田常務委員長から電子媒体で要旨集を配布している学会の例が紹介された（別紙）。今回の講演要旨集は冊子体またはUSBメモリで配布することとし、参加申込時に事前を選択することが承認された。
 - ②参加登録費について（中川）：非会員の登録費を15,000円に改めた。また、参加登録費は前納（振替用紙による、ゆうちょ銀行口座送金）を原則とし、当日支払いの場合は参加登録費、懇親会費ともに2,000円割増しにすることが承認された。参加のみの場合についても申込フォームが利用できるように改めることが承認された。
 - ③発表時間について議論があり、従来通りの時間配分が了承された。また、申込フォームにある講演分野を以下のように変更することが議論され承認された。
 1. 地球科学 2. 資源 3. 無機材料
 4. 化学・物理 5. 土壌・肥料
 6. 建設・農業土木 7. その他（新）
 シンポジウムについて（日比野）：テーマ「女性研究者が拓く粘土科学」でシンポジウムを開催することが承認された。また、プログラム委員の役割分担を明確にすることが提案され、シンポジウムは企画委員が担当し、提案型セッションと特別講演は山崎委員以外の庶務委員で担当することになった。
 - ④講演中の写真撮影について議論がなされ「写真撮影は禁止」の掲示及びアナウンスを会場で行うが、記念写真発表者は座長の承諾が必要である旨、告知す

ることが了解された。

- (2) 法人化について (八田) : 法人化については準備検討委員会 (仮称) を設立して進めることで合意し、以下のメンバーが委員として承認された。

八田常務委員長, 志々日委員, 篠原委員, 田村委員, 鈴木 (憲) 委員

3. その他

- (1) 学会誌バックナンバーについて (八田) : 学会誌バックナンバーを国際農林水産業研究センターから産総研へ移動することが承認された。

- (2) 日本粘土学会60周年行事 (八田) : 朝倉書店から提案があった「粘土の事典 (仮称)」の発行について説明があり承認された。編集委員などについては後日連絡を行う際にご協力をお願いしたいとの要請があった。

- (3) 日本粘土学会の6分野区分について (山田)
分野の見直しを検討しており、総会に諮るため次回評議員会において、再度議論する事とし、意見は八田常務委員長に集約して欲しいとの要請があった。変更案として以下が示された。

1. 地球科学 (変更なし)
2. 資源→資源・土木工学
3. 無機化学→材料化学
4. 化学・物理 (変更なし)
5. 土壌・肥料→農業・農学
6. 建設・農業土木→建設・環境化学

次回の評議員会は平成25年7月20日 (土) に開催することが決定した。

以上